

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公表特許公報(A)

(11) 特許出願公表番号

特表2009-513763

(P2009-513763A)

(43) 公表日 平成21年4月2日(2009.4.2)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
C09K 3/00 (2006.01)	C09K 3/00 103G	4C083
C11D 1/74 (2006.01)	C11D 1/74	4H003
C11D 3/37 (2006.01)	C11D 3/37	4J038
C11D 17/08 (2006.01)	C11D 17/08	
C09D 5/02 (2006.01)	C09D 5/02	

審査請求 未請求 予備審査請求 未請求 (全 23 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	特願2008-537068 (P2008-537068)	(71) 出願人	501185604
(86) (22) 出願日	平成18年10月23日 (2006.10.23)		ランベルティ ソシエタ ペル アチオニ
(85) 翻訳文提出日	平成20年6月23日 (2008.6.23)		イタリア国、21041 アルビザッテ、
(86) 国際出願番号	PCT/EP2006/067654		ヴィア ビアヴェ、18
(87) 国際公開番号	W02007/048766	(74) 代理人	100102842
(87) 国際公開日	平成19年5月3日 (2007.5.3)		弁理士 葛和 清司
(31) 優先権主張番号	VA/2005/A/0058	(74) 代理人	100152250
(32) 優先日	平成17年10月27日 (2005.10.27)		弁理士 峰松 勝也
(33) 優先権主張国	イタリア (IT)	(72) 発明者	ディ コスモ, アンナ
			イタリア共和国 アイーオー0049 ペレ
			トリ、ピアール オベルダン 11
		(72) 発明者	リ バッシ, ジュゼッペ
			イタリア共和国 21026 ガヴィラテ
			、ヴィア ストレッティ 4

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 水系のための液状増粘剤

(57) 【要約】

水系のための液状増粘剤であって、粘度抑制剤として5～40重量%の、エトキシ化された、6個～18個の炭素原子を有するカルボン酸のモノ-および/またはジ-グリセリド、15～40重量%のポリウレタン会合増粘剤であって、少なくとも1種の有機ポリイソシアナート、少なくとも1種の水溶性ポリエーテルジオールおよび少なくとも1種の疎水性キャッピング剤であって10個～24個の炭素原子を含有するものの反応によって得られるもの、20～80重量%の水を含み、有機溶媒、揮発性有機化合物および他の粘度抑制剤を含まないもの。

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

水系のための液状増粘剤であって、以下を含み：a) 5～40重量%の、エトキシ化された、6個～18個の炭素原子を有するカルボン酸のモノ-および/またはジ-グリセリド；b) 15～40重量%のポリウレタン会合増粘剤であって、少なくとも1種のポリイソシアナート、少なくとも1種の水溶性ポリエーテルジオールおよび少なくとも1種の疎水性キャッピング剤であって10個～24個の炭素原子を含有するものの反応によって得られるもの；c) 20～80重量%の水、

有機溶媒、揮発性有機化合物および他の粘度抑制剤を含まないもの。

【請求項 2】

モノ-および/またはジ-グリセリドが、4～12モルのエチレンオキシドによってエトキシ化されている、請求項 1 に記載の液状増粘剤。

【請求項 3】

ポリウレタン会合増粘剤が、少なくとも1種の有機ポリイソシアナート、少なくとも1種の水溶性ポリエーテルジオールおよび少なくとも1種の疎水性キャッピング剤であって12個～24個の炭素原子を含有するものの反応によって得られるものである、請求項 2 に記載の液状増粘剤。

【請求項 4】

エトキシ化されたモノ-および/またはジ-グリセリドが、8～14個の炭素原子を有する飽和脂肪酸のグリセリドであり、約6～7モルのエチレンオキシドによってエトキシ化されている、請求項 3 に記載の液状増粘剤。

【請求項 5】

以下を含有する請求項 4 に記載の液状増粘剤：a) 5～30重量%の、カプリル酸またはカプリン酸のモノ-および/またはジ-グリセリドであって、約6モルのエチレンオキシドによってエトキシ化されているもの；b) 15～30重量%の会合ポリウレタンであって、ポリエチレングリコール、4,4'-ジシクロヘキシルメタンジイソシアナートおよび/または1-イソシアナートメチル-5-イソシアナート-1,3,3-トリメチルシクロヘキサンならびにC₁₆～C₂₄の分枝一価アルコール、好ましくはC₁₆またはC₂₀ゲルベットアルコール、の反応によって得られ、分子量約6,000～20,000であるもの；c) 40～80重量%の水。

【請求項 6】

液状増粘剤を製造する方法であって、以下の工程を含むもの：a) 少なくとも1種の有機ポリイソシアナート、少なくとも1種の水溶性ポリエーテルジオールおよび少なくとも1種の疎水性キャッピング剤であって10個～24個の炭素原子を含有するものの反応によって、会合ポリウレタンを得る工程；b) 前記ポリウレタンを、0.1～2.7重量部の、6個～18個の炭素原子を有するカルボン酸のエトキシ化されたモノ-および/またはジ-グリセリドおよび0.5～5.3重量部の水と混合する工程。

【請求項 7】

工程 a) および b) のポリウレタンが、溶融形態である、請求項 6 に記載の液状増粘剤を製造する方法。

【請求項 8】

請求項 1～5 のいずれかに記載の液状増粘剤を含む化粧品用組成物。

【請求項 9】

請求項 1～5 のいずれかに記載の液状増粘剤を含むラテックス塗料。

【請求項 10】

請求項 1～5 のいずれかに記載の液状増粘剤を含む家庭用洗浄組成物。

【請求項 11】

請求項 1～5 のいずれかに記載の液状増粘剤の、以下の製造のための使用：化粧品；ラテックス塗料；水ベースペーパーコーティング；家庭用洗浄剤。

【発明の詳細な説明】

10

20

30

40

50

【技術分野】

【0001】

技術分野

本発明は、水系のための液状増粘剤であって、ポリウレタン会合増粘剤およびエトキシ化されたグリセリドを含有するもの、および化粧品、ラテックス塗料、水ベースインクおよび印刷ペースト、ペーパーコーティング剤、洗剤等の製造のためのそれらの使用を指向している。

本発明の液状増粘剤は、有利に、有機溶媒、揮発性有機化合物、他の粘度抑制剤を含有せず、容易に水系に取り込まれ、化粧品における使用に許容される。

【背景技術】

10

【0002】

背景技術

ポリウレタン会合増粘剤は周知であり、数多くの刊行物に記載されている(US 4,079,028およびUS 4,155,892等。いずれもRohm and Haasに譲渡された)。

それらの特徴は、ウレタン基ならびに親水鎖および疎水鎖が、同時に存在することにある。

それらの、ラテックス塗料のような水ベース系における増粘剤としての使用は、広く行われている。

【0003】

20

しかし、それらにはいくつかの欠点がある。

それらの疎水鎖が水における急速溶解を妨げるので、それらを乾燥形態で水系に導入することは困難であり、多大なる操作が必要となる。他方において、それらの増粘能により、液状増粘剤として用い得る濃縮度が高い水溶液の製造が妨げられる。

会合ポリウレタン類を含有する、濃縮度が高い増粘組成物を調製する多くの試みが、文献において報告されている。提案されているのは、溶媒および/または界面活性剤の添加；ポリウレタンの分子量の低減；粘度低減剤として作用する特定の化合物の、増粘剤への導入、である(例えばUS 5,378,756、US 5,425,806、US 5,959,013、US 6,090,876、US 6,150,445を参照)。

【0004】

30

企図された機能を発揮する一方で、有機溶媒は、潜在的な環境面、安全性および衛生上の問題を頻繁に招来する。

ある界面活性剤、アルコキシル化フェノール等は、毒性面で受け入れられがたい。他のものは、増粘剤の粘度を低減する効果が不十分であり、それは濃縮度が高い、極端に擬塑性(pseudoplastic)な増粘剤の場合にとくにそうであり、不安定な組成物を生成せしめたり、または適用物における物性に悪影響を与える。

溶媒および特定の界面活性剤の使用に関連する環境および毒性問題とともに、従来技術の増粘剤の満足しがたい効果に鑑み、本出願人は、液状増粘剤として会合ポリウレタンをベースとした下記のようなものを与えることを視野に入れながら鋭意研究を重ねた。注ぎ入れることができ、水系への導入が容易であり、効果が高く、経時的安定性を有し、化粧品としての使用に許容され、有機溶媒および揮発性有機化合物を含まないものである。

40

【発明の開示】

【0005】

発明の開示

水系のための液状増粘剤であって、粘度抑制剤として5～40重量%の、エトキシ化された、6個～18個の炭素原子を有するカルボン酸のモノ-および/またはジ-グリセリド、15～40重量%のポリウレタン会合増粘剤であって、少なくとも1種のポリイソシアナート、少なくとも1種の水溶性ポリエーテルジオールおよび少なくとも1種の疎水性キャッピング剤であって10個～24個の炭素原子を含有するものの反応によって得られるもの、20～80重量%の水、を含有し、有機溶媒、揮発性有機化合物および他の粘度抑制剤を含まないものが、上記段落において述べた特性を示すことが、今見いだされた

50

。

【 0 0 0 6 】

驚くべきことに、カルボン酸のエトキシル化モノ - および / またはジ - グリセリドであって、6 個 ~ 1 8 個の炭素原子を有するものが、通常の界面活性剤より粘度低減剤としてより効果が高い一方、会合ポリウレタンベースの液状増粘剤として極めて良好な増粘効果を示し、極めて好ましい毒性プロフィールを有することが見いだされた。

本発明のとくに有利な側面によれば、上記エトキシル化モノ - および / またはジ - グリセリドは、液状増粘剤の安定化剤としての効果も有する。

【 0 0 0 7 】

前記モノ - および / またはジ - グリセリドとして本発明の実施に有用なものは知られていて、例えばUS 3,934,003に記載されている。これらは、例えば、天然のオイル脂肪酸を分画することにより得られる部分グリセリド類とエチレンオキシドとを反応させるか、またはグリセリンをエトキシル化した後、生成物を脂肪酸とともに加水分解することにより調製することができる。

それらは普通、化粧品および医薬の乳化剤、潤滑剤、離型化合物、可塑剤等として用いられている。

化粧品においては、脂肪酸のモノ - および / またはジ - グリセリドは、とくに重用されている。軟化剤成分としても作用するからである。

本発明の脂肪酸のモノ - および / またはジ - グリセリドは、水溶性であり、4 ~ 1 2 モルのエチレンオキシドによってエトキシル化されている。

本発明の好ましい側面においては、前記液状増粘剤は、少なくとも 1 種の有機ポリイソシアナート、少なくとも 1 種の水溶性ポリエーテルジオールおよび少なくとも 1 種の疎水性キャッピング剤であって 1 2 個 ~ 2 4 個の炭素原子を含有するものの反応によって得られる会合ポリウレタンを含む。

【 0 0 0 8 】

用いることができるポリウレタンの例は、直鎖または分枝のポリウレタンであって、ポリエチレングリコールまたはポリプロピレングリコール（平均分子量として 4 , 0 0 0 ~ 1 4 , 0 0 0 を有する）、直鎖または分枝一価アルコールであって 1 0 個 ~ 2 4 個の炭素原子を有するものおよびヘキサメチレン - 1 , 6 - ジイソシアナート、1 - イソシアナートメチル - 5 - イソシアナート - 1 , 3 , 3 - トリメチルシクロヘキサン、4 , 4 ' - ジシクロヘキシルメタンジイソシアナート、1 , 6 - ジイソシアナート - 2 , 4 , 4 - トリメチルヘキサン、2 , 6 - および 2 , 4 - トリレンジイソシアナート、ヘキサメチレン - 1 , 6 - ジイソシアナートイソシアヌラート、から選択される 1 種または 2 種以上のイソシアナート、任意に多価アルコール（トリメチロールプロパン等）の存在下、の反応によって得られる。前記ポリウレタンは、一般に平均分子量として 6 , 0 0 0 ~ 3 0 , 0 0 0 を有する。

【 0 0 0 9 】

本発明の液状増粘剤は、溶媒、揮発性有機化合物および他の粘度抑制剤を含んでいない。すなわち、当該物質の総含量は 1 重量 % 未満である。

前記会合ポリウレタンとして本発明の液状増粘剤に含有されているものは、ニュートンの粘性法則に従うもの（newtonian）であってよく、すなわち、中程度の剪断速度における効果が高く、擬塑性でさえあり、すなわち低い剪断速度における効果が高い。

エトキシル化モノ - および / またはジ - グリセリドが 8 ~ 1 4 個の炭素原子を有する飽和脂肪酸のグリセリドであり、6 ~ 7 モルのエチレンオキシドによってエトキシル化されているものは、粘度低減剤として、項活性であり、極端に擬塑性であるポリウレタンの場合においても、とくに好適であることが見いだされた。

【 0 0 1 0 】

本明細書において、「極端に擬塑性のポリウレタン」なる表現によって、会合ポリウレタン増粘剤として、調製が疎水性キャッピング剤であって少なくとも 1 6 個の炭素原子を含有するものからなされるものを意味する。

10

20

30

40

50

液状増粘剤のうち会合化合物を含むものは、通常、水ベースペーパーコーティング剤や水ベースワニスおよび塗料のような、結合剤含有組成物の増粘に用いられる。

好適な結合剤は、乳化結合剤であり、アルキド樹脂、およびラテックス結合剤、例えばポリビニルアセタート、ビニルアセタートおよびアクリレート、および/またはエチレン、および/または塩化ビニル、および/またはスチレン、ポリアクリレートのコポリマーである。

【0011】

本発明の液状増粘剤は、水ベース結合剤含有組成物の増粘に好適であることが明らかになった。

とくに好ましい本発明の液状増粘剤は、予想外なことに、結合剤を含有しない水性組成物においても極めて好適に用いられることが見いだされたものであり、以下を含有する：5～30重量%の、カプリル酸またはカプリン酸のモノおよび/またはジ-グリセリドであって、約6モルのエチレンオキシドによってエトキシ化されているもの、15～30重量%の会合ポリウレタンであって、ポリエチレングリコール、4,4'-ジシクロヘキシルメタンジイソシアナートおよび/または1-イソシアナートメチル-5-イソシアナート-1,3,3-トリメチルシクロヘキサンならびに $C_{16} \sim C_{24}$ の分枝一価アルコール、好ましくは C_{16} または C_{20} ゲルベット (Guerbet) アルコール、の反応によって得られ、分子量約6,000～20,000であるもの、および40～80重量%の水。この好ましい液状増粘剤は、無色、透明であり、経時的に極めて安定であり、増粘した、透明かつ無色の化粧品および洗剤製剤を得るために、有機結合剤がない場合でも有利に用いることができる。

【0012】

本発明の液状増粘剤の調製は、少なくとも1種の有機ポリイソシアナート、少なくとも1種の水溶性ポリエーテルジオールおよび少なくとも1種の疎水性キャッピング剤の反応によって、会合ポリウレタンを得た後、前記ポリウレタンを、適切な量の、6個～18個の炭素原子を有するカルボン酸のエトキシ化モノおよび/またはジ-グリセリドと混合し、水による量の調整を、混合工程の前または後に行うことによって行うことができる。前記会合ポリウレタンの調製は、ウレタンの合成に一般に知られた手法に従って行い、好ましくは未反応のイソシアナートが残っていないようにする。

【0013】

水は反応から除く必要がある。水は、イソシアナート官能基と反応するからである。

無水条件とするためには、反応生成物の予備的な乾燥を行う。

反応を行う際には、好ましくは溶媒を用いない。

反応温度の選択は、反応を合理的に速いものとし、ポリマーの粘度を得つつ、望ましくない副反応を回避するように行う。

【0014】

ある好ましい態様においては、本発明の液状増粘剤の調製は、エトキシ化モノ-および/またはジ-グリセリドの添加を、会合ポリウレタンの調製の直後に、溶融形態のままで行う。

上記溶解または無溶媒工程を会合ポリウレタンの調製に用いる場合、ポリグリコールをミキサーに入れ、加熱し、脱水を数時間行う。

真空を解放し、温度を一定にする。

イソシアナートおよび触媒を添加し、好適な反応時間の後、キャッピング剤を添加し、反応せしめる。次に、エトキシ化モノ-および/またはジ-グリセリドを、好ましくは溶融ポリウレタンに添加し、次にポリウレタンを水に分散せしめる。

もしくは、本発明の液状増粘剤を得るためには、適切な量の、乾燥形態の会合ポリウレタン、炭素原子6個～18個を有するカルボン酸のエトキシ化モノ-および/またはジ-グリセリド、および適切な量の水を混合する。

【0015】

本発明のもう一つの目的は、液状増粘剤を製造する方法であって、以下の工程を含むも

のである。a) 少なくとも1種の有機ポリイソシアナート、少なくとも1種の水溶性ポリエーテルジオールおよび少なくとも1種の疎水性キャッピング剤であって10個～24個の炭素原子を含有するものの反応によって、会合ポリウレタンを、好ましくは溶融形態で、得る工程；b) 前記ポリウレタンの混合を、好ましくは溶融形態で、0.1～2.7重量部の、6個～18個の炭素原子を有するエトキシシ化モノおよび/またはジ-グリセリドを0.5～5.3重量部の水と行う工程。

【0016】

本発明の液状増粘剤がとくに好適なのは、以下のものの調製についてである。化粧品、例えば、シャンプー、ヘア・ローションおよびクリーム、マスク；ラテックス塗料；水ベースペーパーコーティング；クリーナー、とくに家庭用クリーナーとして活性成分として酸を含有しているもの、例えばメタルクリーナー、デスカラント (descalant)、便器用クリーナー、自動ディッシュウォッシャーリンス添加剤等。

本発明の液状増粘剤の特徴は、例外的である低い粘度とともに、高い増粘効果を有することであり、高活性な会合ポリウレタンを含有する場合においても当てはまる。

しかも、本発明のエトキシシ化グリセリドによって、安定な水性組成物として、室温における保存の間に分離せず、増粘剤を合成する際の扱いが容易なものを得ることが可能となる。

【0017】

例

例1～6 溶融ポリウレタンから調製した液状増粘剤の粘度

例1

反応容器として、内部温度計、攪拌機、冷却器を備えたものに、窒素雰囲気下および室温下にて、254.3gの、平均分子量4,000であるポリエチレングリコールを充填する。

ポリエチレングリコールを溶かし、110 に加温し、3時間にわたり、真空下にて脱水する。次に温度を75 に安定させ、反応器の内容物を窒素にて覆う。

【0018】

次に、28.3gの1-イソシアナートメチル-5-イソシアナート-1,3,3-トリメチルシクロヘキサン (イソホロンジイソシアナートまたはIPDI) の反応器への添加を、触媒としての2.8gのトリメチロールプロパンおよび0.1gのジラウリル酸ジブチルスズとともに、攪拌しながら行う。

温度を110 に上げ、反応を進行せしめ、遊離NCO基が滴定による理論値 (この例および他の例における測定は、標準法であるASTM D2572に従う) を与えるようにする。

続いて6.8gのIsalchem 123 (C₁₂～C₁₃ 一級単側鎖アルコール、Condeaより) および7.7gのIsalchem 145 (C₁₄～C₁₅ 一級単側鎖アルコール、Condea製) を添加する。

1時間の反応後、ポリマーがNCOネガティブであることのチェックを、I.R. スペクトラムによって行う。

【0019】

最後に、溶融ポリマーの希釈を300gのSterol CC 595 (PEG-6カプリン-カプリルグリセリド、Cesalpinia Chemicalsより) および400gの脱ミネラル水によって行い、溶媒フリーな液状増粘剤として、約30%のポリウレタン / 30%のSterol CC 595 / 40%の水からなり、20 におけるBrookfield粘度として7,320 mPa*s (S06; 50rpm) を有するものを得る。

得られた液状増粘剤は無色透明である。

【0020】

例2～6 (比較例)

例1の手順を繰り返す。ただしSterol CC 595を、下記に掲げた非イオン性粘度抑制剤に替え、液状増粘剤として表1に記載の組成および粘度を20 にて有するものを得た。

粘度抑制剤 (商品名 = 化学的物性、製造者):

10

20

30

40

50

Rolfor 123/6.5 = C₁₂ ~ C₁₃ アルコール 6.5 OE、Cesalpinia Chemicals;
 Rolfor TR/40 = イソトリデシルアルコール 40 OE、Cesalpinia Chemicals;
 Rolfor TR8/L = イソトリデシルアルコール 8 OE、Cesalpinia Chemicals;
 Borchigen DFN = p - ヒドロキシビフェニルエトキシシル化ベンジル、Borchers。

【 0 0 2 1 】

表 1 に記載した粘度のデータによって、本発明のエトキシ化グリセリドにおける、疎水性に修飾したポリウレタン増粘剤の粘度の低下の度合いは、市販の粘度抑制剤より良好であり、活性成分(ポリウレタン)のパーセントが高い場合にもそうであることが示される。

【 0 0 2 2 】

【 表 1 】

10

表 1

例	粘度抑制剤	ポリウレタン% (w/w)	粘度抑制剤% (w/w)	粘度 (mPa*s)
1	Sterol CC595	30%	30%	7,320
2*	Rolfor 123/6.5	30%	30%	17,000
3*	Rolfor 123/6.5	20%	20%	9,860
4*	Rolfor TR/40	20%	20%	>100,000
5*	Rolfor TR8/L	30%	30%	>100,000
6*	Borchigen DFN	20%	20%	>100,000

20

*比較例

【 0 0 2 3 】

例 7 ~ 1 4 . 乾燥形態のポリウレタンから調製した液状増粘剤の粘度

乾燥形態の会合ポリウレタン(ポリウレタン A)の調製:

反応容器として、内部温度計、攪拌機、冷却器を備えたものに、窒素雰囲気下および室温下にて、255 . 1 g の、平均分子量 4 , 0 0 0 であるポリエチレングリコールを充填する。ポリエチレングリコールを溶かし、110 に加温し、3 時間にわたり、真空下にて脱水する。次に温度を 7 5 に安定させ、反応器の内容物を窒素にて覆う。

30

【 0 0 2 4 】

次に、28 . 3 g のイソホロンジイソシアナートの反応器への添加を、触媒としての 2 . 8 g のトリメチロールプロパンおよび 0 . 1 g のジラウリル酸ジブチルスズとともに、攪拌しながら行う。

温度を 1 1 0 に上げ、反応を進行せしめ、遊離 N C O 基が滴定による理論値を与えるようにする。

続いて 1 3 . 6 g の Isalchem 123 を添加する。1 時間の反応後、ポリマーが N C O ネガティブであることのチェックを、I . R . スペクトラムによって行う。

前記会合ポリウレタン(ポリウレタン A)を、固体であり、冷却すると容易に碎けるワックスとして、得る。

40

【 0 0 2 5 】

液状増粘剤の調製:

2 5 g のポリウレタン A 2 5 g の粘度抑制剤(表 2 参照)および 5 0 g の水の混合物への添加を、1 時間にわたり、激しく攪拌しながら行い、次に液状増粘剤を 20 ° C に保存する。

上記のもの以外に、粘度抑制剤として下記のものについても評価を行った: 粘度抑制剤(商品名 = 化学的物性、製造者):

Sterol LG 492 = P E G - 7 グリセリルココエート、Cesalpinia Chemicals;

Rolfor LA 8 = ラウリルアルコール 8 OE、Cesalpinia Chemicals;

50

Emulson AG 7717/A = ポリ - アリールエトキシシル化フェノール、Cesalpinia Chemicals

;

Sorbilene LH = ポリオキシエチレン(20) ソルピタンモノラウラート、Cesalpinia Chemicals;

Tegodisperse 650 = 改質ポリエーテル、Tego。

【 0 0 2 6 】

このようにして得られた液状増粘剤に関するデータを表 2 に示す。

粘度の測定は、Brookfield viscometer RVT-DV-Iを用いて、20 にて、それぞれの生成物から泡が消えた後に行った。

安定性は月数にて表し、評価はサンプルの均一性を目視にてチェックして行う。

外観の評価も、視覚的に行う。

泡の持続性についても、日数によって表したものを、表 2 に示す。

当該結果から、本発明のエトキシシル化グリセリドは、ポリウレタン A のようなポリウレタン会合増粘剤に対して、高～中剪断速度において、粘度低減効果を有することが示される。

【 0 0 2 7 】

【 表 2 】

表 2

例	粘度抑制剤	安定性	発泡持続性	外観	粘度 (mPa*s)
7	Sterol CC 595	>6	1	透明 無色	2,016
8	Sterol LG 492	>6	<2	ほぼ透明 無色	4,184
9*	Borchigen DFN	>6	<2	濁った 黄色状	5,304
10*	Rolfor LA 8	>6	3	濁った 無色	5,416
11*	Emulson AG 7717/A	>6	2	濁った 黄色状	10,140
12*	Sorbilene LH	>6	<3	濁った 黄色状	14,800
13*	Rolfor 123/6,5	<1**	>20	濁った 無色	-
14*	Tegodisperse 650	<1**	>20	濁った 黄色状	-

*比較例

** 2 層に分離した

【 0 0 2 8 】

例 1 5 ~ 2 0 . 液状増粘剤の増粘効果

例 1 5

0 . 3 g のポリウレタン A の添加を 9 9 . 7 g のRolflex D148に行った。Rolflex D148 は、市販のポリウレタン分散剤の結合剤で、Lamberti SpAからのものである。

【 0 0 2 9 】

例 1 6 ~ 2 0

例 7 ~ 1 1 からの液状増粘剤 1 . 2 g を、それぞれ、9 8 . 8 g のRolflex D148に添加した。

【 0 0 3 0 】

活性成分であるポリウレタン関連増粘剤のコンテンツは、例 1 5 ~ 2 0 の各混合物にお

いて、0.3重量%である。

このようにして得た混合物を、それぞれ5分間、600rpmにて攪拌し、20℃にて24時間保存した。

次に粘度曲線の測定を、Physica UDS200 rheometerを用いて、20℃にて行った。結果を表3にまとめ、低剪断粘度を示す。

粘度のデータから、エトキシ化グリセリドは、ポリウレタンの増粘効果に大きい悪影響を及ぼさないことが示される。

【0031】

【表3】

表3

例	ポリウレタン	粘度 (mPas) (0.1 s-1)
15*	ポリウレタン A	18,900
16	例7から	15,040
17	例8から	12,400
18*	例9から	16,100
19*	例10から	12,400
20*	例11から	12,700

*比較例

【0032】

例21. 溶融状態の極端に擬塑性である会合ポリウレタンから調製した液状増粘剤の粘度

反応容器として、内部温度計、攪拌機、冷却器を備えたものに、窒素雰囲気下および室温下にて、221.4gの、平均分子量4,000であるポリエチレングリコールを充填する。ポリエチレングリコールを溶かし、110℃に加温し、3時間にわたり、真空下にて脱水する。次に温度を75℃に安定させ、反応器の内容物を窒素にて覆う。

【0033】

次に、16.4gのイソホロンジイソシアナートの反応器への添加を、触媒としての0.1gのジラウリル酸ジブチルスズとともに、攪拌しながら行う。温度を110℃に上げ、反応を進行せしめ、遊離NCO基が滴定による理論値を与えるようにする。

続いて12.1gの2-オクチルデカノールを添加する。1時間の反応後、ポリマーがNCOネガティブであることのチェックを、I.R.スペクトラムによって行う。最後に、溶融ポリマーの希釈を250gのSterol CC 595および500gの脱ミネラル水によって行い、無色透明な液状増粘剤として、25%のポリマー / 25%のSterol CC 595 / 50%の水からなり、20℃におけるBrookfield粘度として4,070 mPa*s(S05; 50rpm)を有するものを得る。

【0034】

例22～27. 乾燥形態の極端に擬塑性である会合ポリウレタンから調製した液状増粘剤の粘度

ポリウレタン(ポリウレタンB)の調製:

ポリウレタンBの調製は、例21に記載の通りに行ったが、Sterol CC 595および水の添加は行わず、ポリウレタンの単離を、固体で、容易に碎けるワックスとして行った。

【0035】

液状増粘剤の調製:

25gのポリウレタンBを25gの粘度抑制剤(表4参照)および50gの水に、1時間激しく攪拌しながら添加し、次に液状増粘剤を20℃にて保存した。

このようにして得られた液状増粘剤に関するデータを表4に示す。

粘度の測定は、Brookfield viscometer RVT-DV-Iを用いて、20℃にて、それぞれの生成物から泡が消えた後に行った。

10

20

30

40

50

安定性は月数にて表し、評価はサンプルの均一性を目視にてチェックして行う。
外観の評価も、視覚的に行う。

泡の持続性についても、日数によって表したものを、表 4 に示す。

【 0 0 3 6 】

【表 4】

表 4

例	粘度抑制剤	安定性	発泡持続性	外観	粘度 (mPa*s)
22	Sterol CC595	> 6	< 3	透明 無色	4,000
23*	Sorbilene LH	> 6	10	透明 黄色状	181,400
24*	Emulson AG 7717/A	< 1**	>20	透明 黄色状	/
25*	Borchigen DFN	> 6	3	やや濁る 黄色状	18,,900
26*	Borchigen DFN + 5%のアルキン***	> 6	3	透明 黄色状	9,450
27*	Tegodisperse 650	< 1**	>20	濁る 無色	/

*比較例

** 2 層に分離した

*** 2, 4, 7, 9-テトラメチル-5デシン-4, 7-ジオール (DE-A-4310702 に記載のとおり)

【 0 0 3 7 】

表 2 および表 4 のデータを比較すると、同一の粘度抑制剤であり、ポリウレタン A (効果を有する媒体であるポリウレタン会合増粘剤) に効果を示すものが、擬塑性がより高いポリウレタン (ポリウレタン B) を用いた場合には同等の効果を示さないが、前記エトキシ化グリセリドは、極めて良好なパフォーマンスをポリウレタン B にも示すことが明らかである。

【 0 0 3 8 】

例 2 2、2 5 および 2 6 の液状増粘剤の増粘効果の測定

2 g の例 2 2、2 5 および 2 6 の液状増粘剤を、それぞれ 9 8 g の市販のアクリル乳化剤である NeoCryl XK-90 (Avecia NeoResins より) に添加し、活性成分のコンテンツを 4 5 % から 3 6 % に希釈した。各溶液における増粘剤活性成分のコンテンツは 0 . 5 重量 % であった。

このようにして得られた混合物の攪拌を、5 分間、6 0 0 r p m において行った。このようにして得られた均一な分散物を 2 0 にて 2 4 時間保存した。次に粘度曲線の測定を、Physica UDS200 rheometer を用いて、2 0 にて行った。

結果を表 5 に記載し、低剪断および高剪断粘度 (単位 mPa*s) を示す。

【 0 0 3 9 】

【表 5】

表 5

増粘剤の例	粘度 (0.01 s^{-1})	粘度 (10^4 s^{-1})
22	1,300,000	76
25*	778,000	53
26*	1,000,000	59

*比較例

【0040】

10

表 4 および 5 のデータから、本発明のエトキシ化グリセリドは、濃縮した組成物の粘度低減効果が最も高い一方、ポリウレタンの増粘効果の維持についても最も優れていることが明らかである。

【0041】

例 28 ~ 31 . 液状増粘剤の調製

例 28

反応容器として、内部温度計、攪拌機、冷却器を備えたものに、窒素雰囲気下および室温下にて、214.4 g の、平均分子量 4,000 であるポリエチレングリコールを充填する。ポリエチレングリコールを溶かし、110 に加温し、3 時間にわたり、真空下にて脱水する。次に温度を 75 に安定させ、反応器の内容物を窒素にて覆う。

20

【0042】

次に、17.9 g のイソホロンジイソシアナート (IPDI) および触媒としての 0.1 g のジラウリル酸ジブチルスズの反応器への添加を、攪拌しながら行う。

温度を 110 に上げ、反応を進行せしめ、遊離 NCO 基が滴定による理論値を与えるようにする。

続いて 17.6 g の 2 - オクチルデカノールを添加する。

1 時間の反応後、ポリマーが NCO ネガティブであることのチェックを、I . R . スペクトラムによって行う。

最後に、溶融ポリマーの希釈を 200 g の Sterol CC 595、550 g の脱ミネラル水によって行い、液状増粘剤として、25% のポリウレタン / 20% の Sterol CC 595 / 55% の水からなり、Brookfield 粘度として 5620 mPa*s (S05; 50rpm) を有するものを得る。

30

【0043】

例 29 ~ 31 .

例 28 に記載の手順に従い、表 6 に示す試薬を用い、さらに 3 種類の液状増粘剤の調製を行った。

それらの Brookfield 粘度として 50 rpm において測定したものを、同様に表 6 に示す。

【0044】

【表 6】

表 6

	例 2 8	例 2 9	例 3 0	例 3 1
ポリエーテルジオール(g)	PEG 4000 (214.4)	PEG 4000 (220.4)	PEG 4000 (223.0)	PEG 4000 (181.3)
キャッピング剤(g)	OD ³⁾ (17.6)	HD ⁴⁾ (10.3)	HD ⁴⁾ (10.5)	D ⁵⁾ (5.2)
イソシアナート(g)	IPDI (17.9)	HMDI ¹⁾ (19.2)	IPDI (16.5)	IPDI (13.4)
エトキシ化グリセリド(g)	Sterol CC 595 (200)	Sterol CC 595 (250)	Sterol CC 595 (120)	Sterol CC 595 (50)
水(g)	(550)	(500)	(630)	(750)
増粘剤組成物 ²⁾	25/20/55	25/25/50	25/12/63	20/5/70
粘度 (mPa*s)	5,620	10,200	8,200	10,280

10

- 1) 水素化 4, 4' - ジフェニルメタンジイソシアナート
 2) ポリウレタン (重量 %) / グリセリド (重量 %) / 水 (重量 %)
 3) 2 - オクチルドデカノール
 4) 2 - ヘキシルデカノール
 5) 1 - デカノール

20

【 0 0 4 5 】

例 2 8 ~ 3 1 の液状増粘剤の増粘効果

2 g の例 2 8 ~ 3 1 からの液状増粘剤それぞれの添加を、9 8 g の NeoCryl XK-90 に行った (活性成分のコンテンツは 4 5 % から 3 6 % に希釈された)。各溶液中の増粘剤の活性成分のコンテンツは、常に 0 . 5 重量 % であった。

【 0 0 4 6 】

このようにして得た混合物を、それぞれ 5 分間、6 0 0 r p m にて攪拌した。0 にて 2 4 時間保存した。このようにして得られた均一な分散物を 2 0 にて 2 4 時間保存した。

30

次に粘度曲線の測定を、Physica UDS200 rheometer を用いて、2 0 にて行った。

結果を表 7 に記載し、低剪断および高剪断粘度 (単位 mPa*s) を示す。

【 0 0 4 7 】

【表 7】

表 7

例	低剪断粘度 (0.01 s ⁻¹)	高剪断粘度 (10 ⁴ s ⁻¹)
28	1,890,000	40
29	84,0000	47
30	72,000	55
31	1,557	147

40

【 0 0 4 8 】

表 7 に示したデータから、本発明の粘度抑制剤は、異なるレオロジープロフィールを有する、低剪断速度用の増粘剤から高剪断速度用の増粘剤である、疎水性改質ポリウレタン会合増粘剤の粘度を低減する効果が、非常に優れていることが明らかである。

【 0 0 4 9 】

例 2 8 および 3 0 の液状増粘剤の水中における増粘効果

ここで、下記表 8 において、水中における増粘性につき、本発明の液状増粘剤を異なるレオロジーを有する、3 種の市販の無溶媒会合ポリウレタン増粘剤と比較して示す。

【 0 0 5 0 】

50

【表 8】

表 8

増粘剤	水中の固体含量 (ポリマー +粘度低減剤)	水中の活性成分 含量(ポリマー)	粘度 mPa*s (10 s-1; 20 °C)
例 30 から	5.9%	4%	24,000
例 28 から	7.2%	4%	175,000
Acrysol RM 12W*	4%	--	16
Acrysol RM 12W*	8%	--	72
Borchigel L75N**	8%	4%	6,000
Tegoviscopius 3060***	4%	--	738
Tegoviscopius 3060***	8%	--	750

* Rohm and Haas からのウレタン会合増粘剤

** Borchers からの、中～高剪断速度用ウレタン会合増粘剤

*** Tego からの、擬塑性ウレタン会合増粘剤

10

【0051】

20

本発明の液状増粘剤のみが、水を顕著に増粘し、透明かつ無色の水溶液を与えることができる。

【0052】

適用例

以下の表においては、活性物質（活性成分）のパーセンテージを、処方した量と異なる場合に示す。

【0053】

シャワークリームの調製

表 9 に示した成分を混合する。

まず、界面活性剤を水に添加し、次に混合物の増粘を液状増粘剤によって行い、その他の成分を添加する。

30

ソフトでシルキーなシャワークリームが得られる。pH は生理学的なものである。

【0054】

【表 9】

表 9

INCI 名	%活性成分	量
水		100 に
ラウリル硫酸ナトリウム	9.8	35
コカミドプロピルベタイン	2.4	8
ヒマワリ油脂肪酸 PEG-13 グリセリズ		1.5
ポリクオタニウム-7		1.0
グリセリン		3.0
例 28 の増粘剤	2.5	10
アラントイン		0.5
香料		適量 (QS)
保存料		適量 (QS)

40

【0055】

デリケートなシャワージェルの調製

50

表 10 に示した成分を混合する。

【表 10】

表 10

INCI 名	%活性成分	量
水		100 に
ラウリル硫酸ナトリウム		35
ココポリグルコース酒石酸ナトリウム	10.5	35
PEG-7 グリセリルココエート		2.5
グリセリン		2.0
例 28 の増粘剤	2.5	10
香料		適量 (QS)
保存料		適量 (QS)

10

【0056】

ニュートンの粘性法則に従う (Newtonian) シャワージェルを得る。酒石酸ココポリグルコースのような解毒性界面活性剤が存在するため、肌に優しい。

液状増粘剤の添加によって、製剤の pH は変わらない。

【0057】

アフター・シャンプーパームの調製

20

表 11 に示した成分を混合する。

得られるアフター・シャンプーパームは、小麦プロテインおよびグアーのコンディショニング力とともに、本発明の液状増粘剤の軟らかいタッチを具備する。

増粘剤のフィルミング特性により、髪が保護される。

【0058】

液体クレンジング製品の調製

表 12 に示した成分を混合する。

簡便かつ同時に効果に優れる製剤が得られる。ファミリーニーズに良好に合致するものである。

LES のコンテンツが低く、また、ベタインが存在するため、繊細さ (delicacy) が与えられた製品である。透明度が高く、無色である。

30

【0059】

【表 11】

表 11

INCI 名	活性成分%	量
水		100 へ
グアー塩化ヒドロキシプロピルトリモニウム		0.3
例 28 の増粘剤	2.5	10
加水分解小麦タンパク		0.5
クエン酸		0.2
パンテノール		0.5
コカミドプロピルベタイン	1	3.3
ジステアリン酸グリコール(および)ステアレス-4		3.0
香料		適量 (QS)
保存料		適量 (QS)

40

【0060】

【表 1 2】

表 1 2

INCI 名	活性成分%	量
水		100 へ
ラウリル硫酸ナトリウム	9.8	35
ココミドプロピルベタイン	2.4	8
例 2 8 の増粘剤	1.25	5
香料		適量 (QS)
保存料		適量 (QS)

10

【 0 0 6 1】

バームシャンプーの調製

表 1 3 に示した成分を混合する。

得られる製品は、界面活性剤混合物の極めて良好な洗浄力と小麦プロテインのコンディショニング力とを併せて有する。

本発明の増粘剤は、デリケートな被膜 (film) による保護を髪に与える。当該製剤は高い透明度を有する。

【 0 0 6 2】

デリケートなシャンプーの調製

表 1 4 に示した成分を混合する。

得られるシャンプーは、界面活性剤の組み合わせおよび酒石酸の L E S に対する解毒作用により、デリケートさに優れたプロフィールを有し、毎日使うことが可能である。

当該製剤は、薄黄色かつ透明である。

20

【 0 0 6 3】

【表 1 3】

表 1 3

INCI 名	活性成分%	量
水		100 へ
ラウリル硫酸ナトリウム	9.8	30
ココポリグルコース酒石酸ナトリウム	3	10
例 2 8 の増粘剤	1.25	5
PEG-60 アーモンド脂肪酸グリセリル		1.5
加水分解小麦タンパク		1.5
乳酸 pH 5.5 に		適量 (QS)
香料		適量 (QS)
保存料		適量 (QS)

30

【 0 0 6 4】

40

【表 1 4】

表 1 4

INCI 名	活性成分%	量
水		100 へ
ラウリル硫酸ナトリウム	5	17.85
ココアンホ酢酸ナトリウム	5	16.67
ココポリグルコース酒石酸ナトリウム	5	16.67
ココポリグルコーススルホコハク酸ナトリウム	5	12.5
例 2 8 の増粘剤	1.25	5
加水分解小麦タンパク		1.5
乳酸 pH 5.5 に		適量 (QS)
香料		適量 (QS)
保存料		適量 (QS)

10

【 0 0 6 5 】

脂髪用のシャンプーの調製

表 1 5 に示した成分を混合する。

透明で薄黄色のジェルを得る。

20

ココポリグルコースが存在するため、LES からの解毒作用に寄与し、同時に高い脂除去力を与える。

【 0 0 6 6 】

ベビーシャンプーの調製

表 1 6 に示した成分を混合する。

得られるシャンプーは、乳幼児のデリケートな肌に好適である。

本発明の増粘剤は、極めて好ましい毒性プロフィールを有する製剤によく適合する。

【 0 0 6 7 】

【表 1 5】

表 1 5

INCI 名	活性成分%	量
水		100 へ
ラウリル硫酸ナトリウム	5.6	20
コカミドプロピルベタイン	3	10
ココポリグルコースクエン酸ナトリウム	3	10
例 2 8 の増粘剤	2.5	10
香料		適量 (QS)
保存料		適量 (QS)

30

40

【 0 0 6 8 】

【表 1 6】

表 1 6

INCI 名	活性成分%	量
水		100 へ
ラウリル硫酸ナトリウム	3.64	13
ココアンフォジ酢酸 2 ナトリウム	3.9	13
ココポリグルコース酒石酸ナトリウム	3.9	13
ココポリグルコーススルホコハク酸ナトリウム	1.6	4
例 2 8 の増粘剤	1.25	5
香料		適量 (QS)
保存料		適量 (QS)

10

【 0 0 6 9 】

保護ミルクの調製

表 1 7 に示した成分を混合する。

シリコン類の組み合わせにより、ドライなタッチの保護ミルクを得る。

本発明の増粘剤により、エマルションは安定し、粘性を得る。また、そのわずかな膜形成性により、肌にある程度の保護が与えられる。

20

【 0 0 7 0 】

ピュリファイングミルクの調製

表 1 8 に示した成分を混合する。

サリチル酸により、ピュリファイングミルクが得られる。

本発明の増粘剤により、製剤が安定化し、サリチル酸を酸化から保護する。

【 0 0 7 1 】

ハンドクリームの調製

表 1 9 に示した成分を混合する。

得られる保護クリームは、本発明の増粘剤により、シルキーな側面および極めてソフトなタッチを有する。

30

オイルの選択により、当該クリームはとても軽い。

【 0 0 7 2 】

【表 1 7】

表 1 7

INCI 名	活性成分%	量
(A相):		
水		100 へ
例 2 8 の増粘剤	2.5	10
グリセリン		1.5
保存料		適量 (QS)
(B相):		
シクロペンタシロキサン		5.0
ジメチコノール		5.0
ジメチコン 200 cst		5.0
C12~15 安息香酸アルキル		5.0
香料		適量 (QS)

40

【 0 0 7 3 】

50

【表 1 8】

表 1 8

INCI 名	活性成分%	量
(A相):		
水		100 へ
例 2 8 の増粘剤	2.5	10
サリチル酸		0.5
ハマメリス (HAMAMELIS VIRGINIANA)		0.5
保存料		適量 (QS)
(B相):		
ステアリン酸グリセリル (および) PEG-100 ステアリン酸		8.0
ジメチコン 200 cst		3.0
香料		適量 (QS)

10

【 0 0 7 4 】

【表 1 9】

表 1 9

INCI 名	活性成分%	量
(A相):		
水		100 へ
例 2 8 の増粘剤	5	20
グリセリン		5.0
アロエ (ALOE BARBADENSIS)		0.5
保存料		適量 (QS)
(B相):		
水添ポリデセン		7.5
ジメチコン 200 cst		2.5
香料		適量 (QS)

20

30

【 0 0 7 5 】

ヘアージェルバームの調製

表 2 0 に示した成分を混合する。

べたつかない、非常に透明なジェルを得る。

【表 2 0】

表 2 0

INCI 名	活性成分%	量
水		100 へ
例 2 8 の増粘剤	6.25	25
加水分解小麦タンパク		2.0
ポリソルベート-20		0.4
香料		0.1
保存料		適量 (QS)

40

【 0 0 7 6 】

保護アフターシェーブの調製

50

表 2 1 に示した成分の混合を、溶解機を用いて行う。

【表 2 1】

表 2 1

INCI 名	活性成分%	量
水		100 へ
例 2 8 の増粘剤	2.5	10
トリデセス-9 (e) PEG-40 水添ヒマシ油		2.0
オクタン酸オクチル		3.0
ビサボロール		0.5
異性化糖		1.0
メントール		0.1
保存料		適量 (QS)
香料		適量 (QS)

10

前記増粘剤により、製品に粘性が与えられ、水溶性がより低い成分が安定化される。得られる製品は、肌に広がり、軽い保護膜を形成する。

【0077】

衛生器具および硬表面用の洗浄ジェルの調製

20

表 2 2 に示した成分を混合する。

完全に透明な製品を得る。Brookfield粘度は、20 rpmおよび25 において3,000 mPa*sである。

薄片 (scale) に接触すると、当該製品は、容易に除去が可能な、しっかりした (consistent) ムースを形成する。

【表 2 2】

表 2 2

成分	活性成分%	量
水		100 へ
例 2 8 の増粘剤	2.5	10
クエン酸ココポリグルコシド、二ナトリウム塩	2.1	7
クエン酸 (pH 2.5 ~3.0 に)	1.4	7

30

【国際調査報告】

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No

PCT/EP2006/067654

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER INV. C09D7/00 B01F17/00		
According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC		
B. FIELDS SEARCHED Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols) C09D B01F		
Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched		
Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practical, search terms used) EPO-Internal, WPI Data		
C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	US 4 636 326 A (HERNANDEZ PAUL M [US] ET AL) 13 January 1987 (1987-01-13) claims 1,2,13 column 7, lines 21-28 column 8, line 44 - column 10, line 4 column 11, lines 39-55 examples 1,2	1-4,6,7
Y	US 5 425 806 A (DOOLAN JOSEPH G [US] ET AL) 20 June 1995 (1995-06-20) claims 1-6 paragraphs [0003], [0004], [0007], [0022] column 1, lines 26-36 column 6, lines 26-28 column 7, lines 8-36 column 8, lines 10-25 -/-	1-4,6-11
<input checked="" type="checkbox"/> Further documents are listed in the continuation of Box C. <input checked="" type="checkbox"/> See patent family annex.		
* Special categories of cited documents : *A* document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance *E* earlier document but published on or after the international filing date *L* document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified) *O* document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means *P* document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed *T* later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention *X* document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone *Y* document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art *&* document member of the same patent family		
Date of the actual completion of the international search 10 May 2007		Date of mailing of the international search report 18/05/2007
Name and mailing address of the ISA/ European Patent Office, P.B. 5818 Patentlaan 2 NL - 2280 HV Rijswijk Tel. (+31-70) 340-2040, Tx. 31 651 epo nl, Fax: (+31-70) 340-3016		Authorized officer Mayer, Anne

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No

PCT/EP2006/067654

C(Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	WO 00/00539 A (AKZO NOBEL NV [NL]; AKZO NOBEL SURFACE CHEM [SE]) 6 January 2000 (2000-01-06) cited in the application claims 1,3,7 page 1, lines 26-28 column 4, line 32 - column 5, line 13 page 5, lines 26-28	1-4,6,9
Y	EP 1 403 324 A (GOLDSCHMIDT AG TH [DE]) 31 March 2004 (2004-03-31) claims 1,6 paragraphs [0003], [0004], [0007], [0022]	1-4,6-11

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

Information on patent family members

International application No

PCT/EP2006/067654

Patent document cited in search report		Publication date	Patent family member(s)	Publication date
US 4636326	A	13-01-1987	NONE	
US 5425806	A	20-06-1995	AU 690238 B2	23-04-1998
			AU 2000795 A	23-11-1995
			CA 2144101 A1	13-11-1995
			DE 69510725 D1	19-08-1999
			DE 69510725 T2	02-12-1999
			EP 0682094 A1	15-11-1995
			ES 2133700 T3	16-09-1999
			SE 514463 C2	26-02-2001
			SE 9501641 A	13-11-1995
WO 0000539	A	06-01-2000	AU 2554499 A	17-01-2000
			CA 2333970 A1	06-01-2000
			CN 1306554 A	01-08-2001
			DE 69916451 D1	19-05-2004
			DE 69916451 T2	26-08-2004
			EP 1093488 A1	25-04-2001
			ES 2220044 T3	01-12-2004
			JP 2002519460 T	02-07-2002
			SE 512220 C2	14-02-2000
			SE 9802329 A	31-12-1999
			US 6150445 A	21-11-2000
EP 1403324	A	31-03-2004	CA 2438257 A1	27-03-2004
			DE 10245099 A1	08-04-2004
			US 2004060473 A1	01-04-2004

フロントページの続き

(51)Int.Cl.		F I	テーマコード (参考)
C 0 9 D 201/00	(2006.01)	C 0 9 D 201/00	
C 0 9 D 175/08	(2006.01)	C 0 9 D 175/08	
A 6 1 K 8/02	(2006.01)	A 6 1 K 8/02	
A 6 1 K 8/39	(2006.01)	A 6 1 K 8/39	
A 6 1 K 8/87	(2006.01)	A 6 1 K 8/87	
A 6 1 K 8/86	(2006.01)	A 6 1 K 8/86	
A 6 1 Q 19/10	(2006.01)	A 6 1 Q 19/10	
A 6 1 Q 1/14	(2006.01)	A 6 1 Q 1/14	
A 6 1 Q 5/02	(2006.01)	A 6 1 Q 5/02	
A 6 1 Q 19/00	(2006.01)	A 6 1 Q 19/00	
A 6 1 Q 9/02	(2006.01)	A 6 1 Q 9/02	

(81)指定国 AP(BW, GH, GM, KE, LS, MW, MZ, NA, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), EA(AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), EP(AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, NL, PL, PT, RO, SE, SI, SK, TR), OA(BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG), AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KM, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, LY, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PG, PH, PL, PT, RO, RS, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, SV, SY, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW

F ターム(参考) 4C083 AA112 AB051 AB052 AC012 AC122 AC182 AC302 AC342 AC352 AC392
AC402 AC421 AC422 AC432 AC442 AC472 AC682 AC712 AC782 AD022
AD071 AD072 AD132 AD152 AD162 AD172 AD202 AD412 AD532 AD642
CC01 CC02 CC05 CC21 CC22 CC23 CC38 DD01 DD22 DD23
DD27 DD31 DD41 EE01 EE07 EE09 EE10 EE12 FF01 FF05
4H003 AB27 AC05 AC12 BA12 EB05 EB38 FA26 FA30
4J038 DG132 DG272 DG282 DG322 JA57 KA07 MA08 MA10 PB01